

【（株）東京スタジアム】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

地域活性化にも貢献する多摩地域のスポーツ拠点

重要課題 ①

RWC2019、東京2020大会を契機としたスポーツ振興や地域の活性化に加え、その先の安定的な収益確保に向けて、新規顧客の獲得に向けたマーケティング力の強化や地域と連携した事業展開をいかに進めていくか

検討の状況や今後の方向性

- 味の素スタジアムと武蔵野の森総合スポーツプラザを一体的に活用したスポーツとエンターテインメントの融合による新たな事業の展開等について、PTを設置し、検討を開始した。
- 今後、欧米の先進的なスタジアムやコンテンツについて研究するとともに、マーケットサウンディング等を通じて当施設のポテンシャルや業界ニーズ、地域との連携事例等について調査を行っていく。
- また、主要顧客等を委員とした検討会の意見を参考に、顧客が2020年以降もスタジアムを活用したくなる仕組み作りに取り組んでいく。
- 上記の取り組み結果を踏まえ、中長期的な経営計画を策定し、今後も健全な経営を堅持できるよう事業を進めていく。

【（株）東京スタジアム】の課題と今後の方向性

重要課題 ②	RWC2019及び東京2020大会の成功に向けた支援と体制の強化
検討の状況や今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">○ 両大会に向けて、都及び組織委員会と密に情報共有を行うことはもちろん、社内的な規定を整備し、大会の準備のための緊急的・突発的な工事・契約に迅速に対応できる体制を構築する。○ 両大会に便乗したイベントやアンブッシュマーケティングが疑われる活動については、当施設の利用を認めないなど、大会運営に支障が出ないように支援していく。○ サッカークラブチームをはじめとする既存顧客に対しては、引き続き要望等をきめ細かく確認しながら、真摯に対応していく。